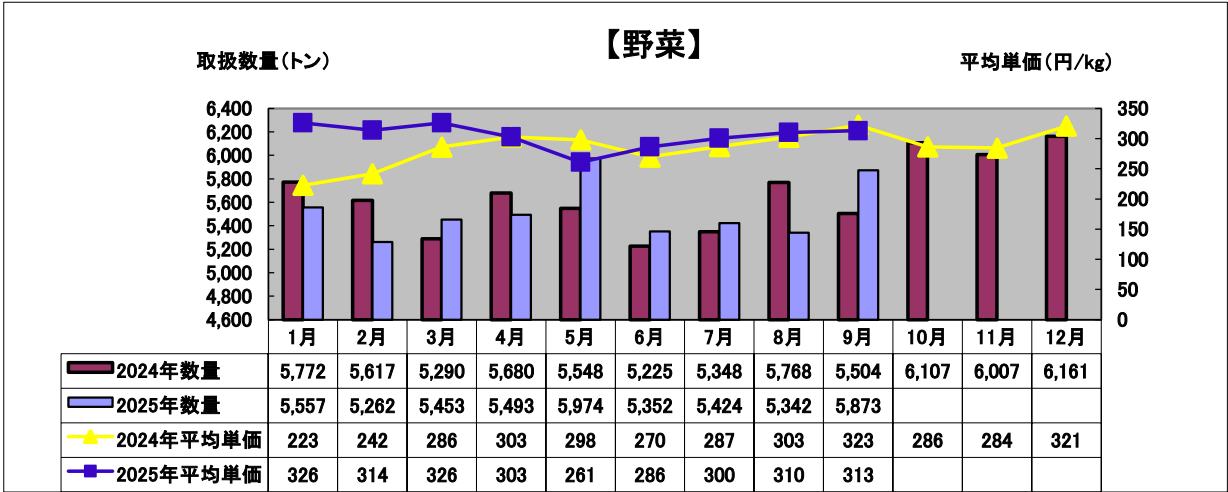
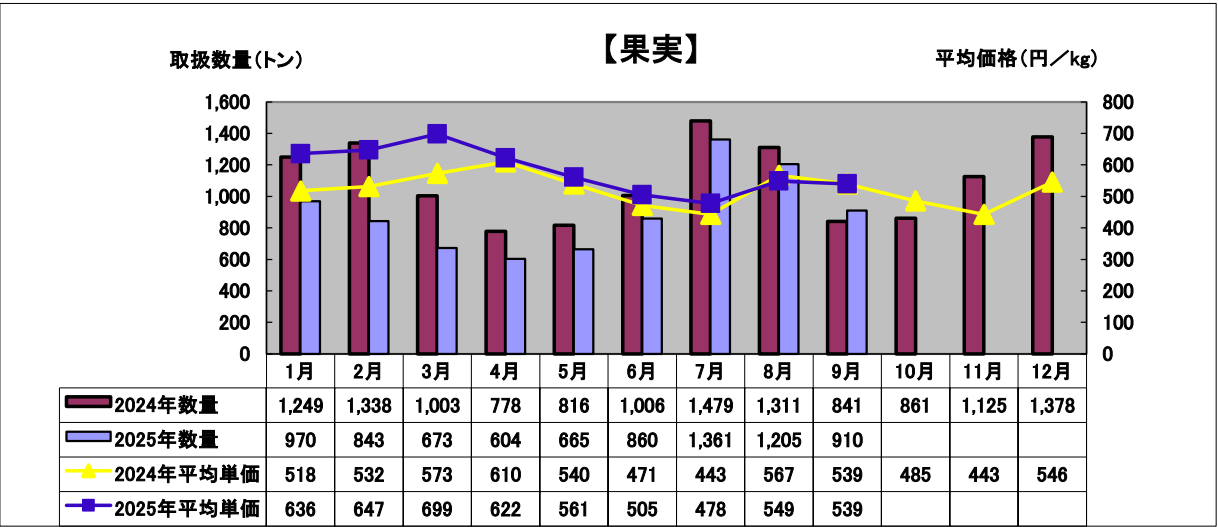


令和7年(2025年)9月 青果部種類別市況



前半は猛暑の影響により数量減・単価高の傾向であったが、中旬以降は数量が持ち直しました。しかし、一部の野菜は品質の低下もあり、単価が伸び悩みました。数量はやや増加、平均単価はやや安く推移しました。

前年比数量 107%、平均単価 97%で終了しました。



前年と比べ、今年は桃や梨といった夏果実の出回り時期が長く続き、さらには柿やブドウといった秋冬果実が例年通りに入荷が始まったため、数量増となりました。ただ、相対的に大きなピークがなく、価格は安定して推移しました。数量はやや増加、平均単価は平年並みに推移しました。

前年比数量 108%、平均単価 100%で終了しました。